

行商人主導型の産業集積：温州アパレル産業に関する考察

呉, 曉林 / WU, Xiao Lin

(出版者 / Publisher)

法政大学小金井論集編集委員会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学小金井論集 / 法政大学小金井論集

(巻 / Volume)

8

(開始ページ / Start Page)

53

(終了ページ / End Page)

74

(発行年 / Year)

2011-12

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00007739>

行商人主導型の産業集積

—温州アパレル産業に関する考察

呉 曉 林

はじめに

本稿は流通と生産の視点から浙江省温州アパレル産業の産業集積の形成過程を考察し、私営企業を主体とする温州の経済発展のありかたへの理解を深めることを目的とする。

温州アパレル産業の現状についてこれまで詳細な事例研究や包括的な産業分析などが未見であった。筆者は2008年から3年間、民営企業の調査をするため、年に一度上海経由で浙江省いくつかの地域を回り、最終年度に浙江省最南端の温州、その西北の義烏などを訪れた。温州ではほぼ予備知識がないまま、現地のアパレル企業である法派集団に案内され、広大な工場敷地と豪華な商談接客ホールに案内され、1970年生まれの創業者が全国各地で紳士服を売る行商活動を経て1997年に会社を興して高級スーツを生産する年商（2009年）25億人民元のアパレルメーカーに成長させた創業史を聞いた。後に温州服装商会を訪問し、温州アパレル企業は個人経営を含めて2500以上あると紹介された。これまで訪れた紹興、寧波とは違い、温州は第一に繊維産地でもなく、第二に交通不便で上海などの都会からも遠く、第三に外国投資も乏しいのにこれだけアパレル企業が数多くあることに驚いていた。

温州調査で第二の「意外」はかつて地域経済成長と産業発展に貢献していた「専門市場」の衰退であった。調査先をアレンジしてくださった地元の経済学者は規模が小さく、機能していないので、もう見る意味がないと嘆いていた。つまり、1990年代後半から温州アパレル産業の発展は専門市場のシナジー効果と関係が薄くなったといった印象であった。

後に筆者が中国の四川省成都、広東、江蘇、上海（2010年9月）、山東省青島

(同年12月)の現地調査先で温州アパレル製品の店舗でのインタビューと文献閲読を通して、温州アパレル産業は温州商人のネットワークに支えられているという基本的認識を得て、卸売市場の衰退はある程度理解できた。

温州人は「温州商人」として名高く、総人口750万人(2000年の時点)で、200万人が故郷を離れ、内、160万人が中国国内で商業や実業に携わり、40万人が世界各地で伝統産業の製品販売と製造など多様なビジネスに励んでいる¹。

中国の各地に設立される温州商会に服装分会があり、国外ではイタリアのローマに温州出身者が経営するアパレル貿易会社が500社以上、アラブ連合共和国ドバイ、スペインのマドリード、ハンガリーのブダペストなどの衣類販売店の95%は温州人が営み、温州のアパレル輸出入は主に温州人が取り仕切る「華僑貿易」という形で行われている²。

温州のアパレル産業は2010年の時点で工業総生産額の6.8%をしめ、同年全国アパレル産業の同比率約2%をはるかに超えている。温州産アパレル製品は2004年の時点、全国消費市場の8%のシェアを占めている。紳士用のスーツは高い時に全国の30%、現在では10%を占め、婦人服、カジュアルウェア、子供服の製造も盛んである。

温州の産業発展を産業集積の発展という視点からおこなった先行研究はいくつかある³。丸川知雄(2001)⁴では温州の多様な産業集積の存在と構造を提示し、(2008)では厳密な地域的範囲と細かい業種分類の基準を設けて40,686件もある事業法人(単位)の名簿から数えて、「秋田県ほどの面積(11,784平方キロ)の土地に153カ所もの産業集積…の存在を解明した」。そして「皮革・靴・バルブ・ポンプの各産業集積がどのように発生したかを文献とインタビューによって明らかにした」。「まだ多くの産業集積が未解明のまま…おそらく温州の産業集積も少数の革新者と多数の模倣者によって形成されたという共通の過程をたどったと推測できる」とも述べられている⁵。

本稿は丸川論文で示された温州アパレル産業集積の分布図を踏まえ、2004年の時点に温州に存在する事業法人6万数百社を収録した『2005温州経済センサス資料匯編上巻』⁶と温州服装協会の資料を使用して、温州アパレル産業集積の現状をさらに細かく見ていく。

表題の「行商人」は1970年代の社隊企業の商品販売、原材料調達、生産オーダーの採りつきなどに従事する「推銷員」、出稼ぎの渡り職人、改革開放初期に

服装の販売、生地の仕入れ販売などビジネスを始めた人たち、さらに自社生産販売をする個人洋裁店主などをふくむ。彼らは遠隔地との商品のやり取りが得意だけではなく、技術も持ち、製造過程に関わり、流通と生産の間を行き来していた⁷。そして各地で得た豊富な市場情報と産地情報を元に90年代に温州でアパレル企業を興したり、立地条件の良いところに工場を移したりする一方、自社ブランドの管理などで直営販売店などを開設して独自のマーケティングチャネルを確立していた⁸。

以下、第1節は温州アパレル産業の特徴を分析し、第2節はアパレル産業集積の現状を地域的の分布と変動に焦点を当てて考察し、第3節では市場（いちば）、行商人の生産過程への参入、服装商会の設立、創新型企業の設立、技術と人材の導入、新しい商品分野の開発、金融危機以降の対応など、産業集積の発生・発展と変化の過程をみる。おわりに行商人は温州アパレル産業のオーガナイザーとしての役割について総括する。

図1 長江デルタに遠い温州

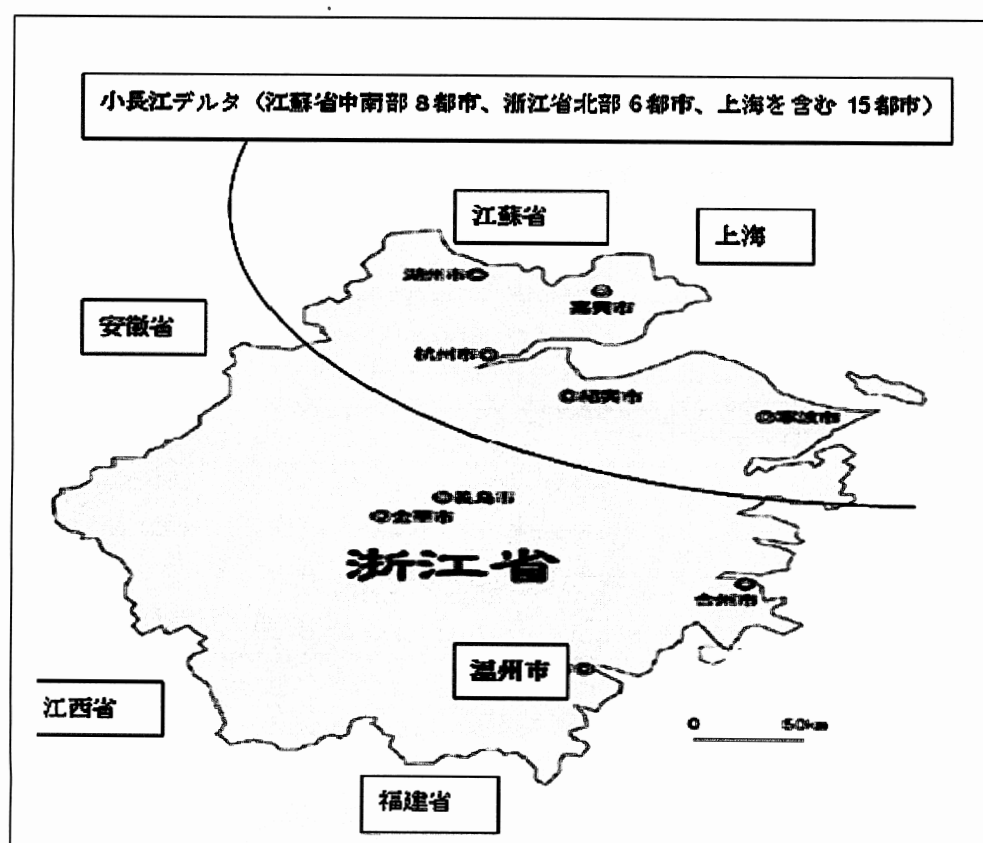
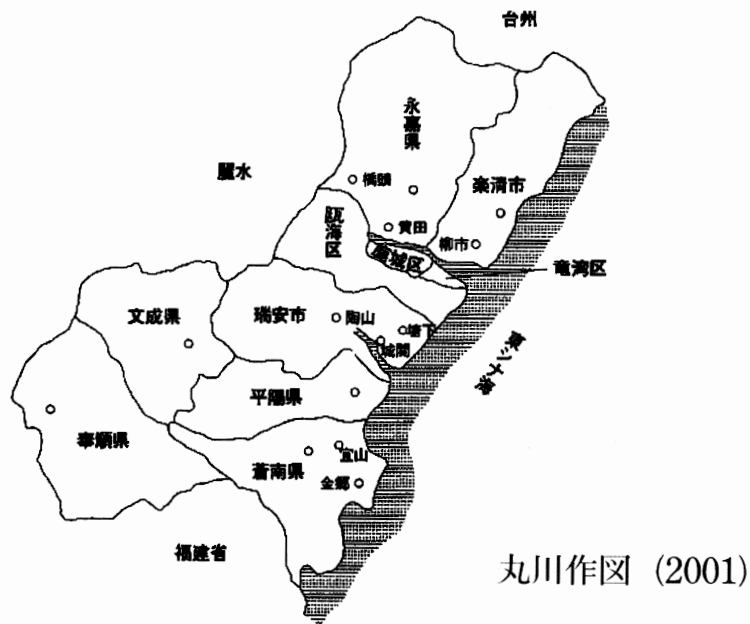
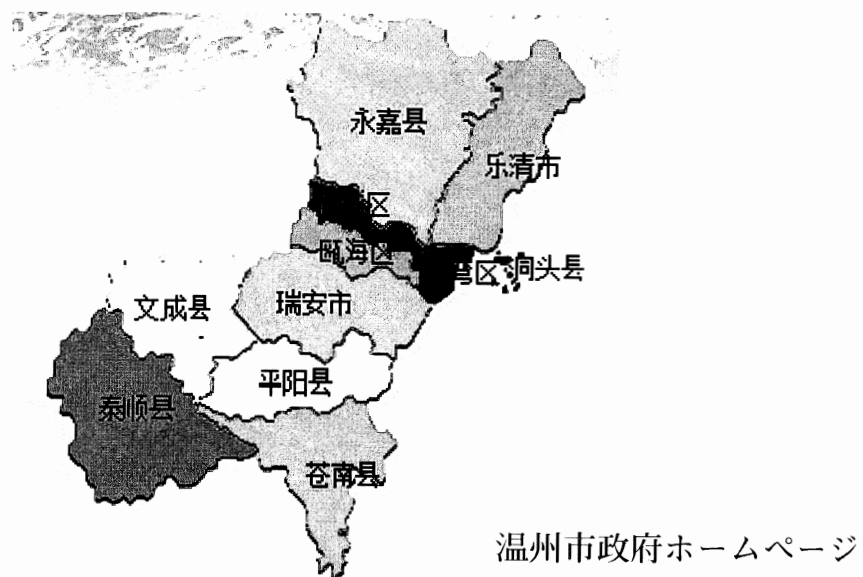


図2 変わる温州の行政区画

① (2000年まで)



② (2001年以降)



一. 産業特性と温州アパレルの特徴

アパレル産業は縫製するものという意味で、最も近いのは中国語の「紡織服装」である。しかし、衣料品という意味では身に纏う繊維産業の最終製品は範囲が広く、綿、毛、麻・シルクと化繊のニット製品、それらの生地縫製品などがあり、アパレル産業はイコール縫製産業ではない。中国では繊維産業という言葉はほと

んど使わず、常用する紡織産業という用語は曖昧であるために、アパレル産業の商品範囲は必ずしも明確になっていない（辻美代の一連の論文を参照）。以下、日本の関連研究、主に鍛島泰子（2006）をもとにアパレル産業の産業特性について整理する。

繊維産業は原料加工から製品化までの間を川上・川中・川下の三つの加工段階に即して言及するのが普通である。川上部門は製糸業や紡績業、それに化合繊維の重合、紡糸を行う原糸・原綿メーカーで構成されるのに対して、次の川中部門はこの原糸を加工して製織・染色し、またはニット（編織）を生産する分野で構成される。川下部門のアパレル業者はこうして生産された布生地を裁断・縫製して最終製品に仕立てる。衣服製品は日本の繊維業界では長く繊維二次製品という言葉を使用してきた。

アパレル産業という概念は日本では1977年、通産省が示した定義、すなわちアパレル（すなわち衣服）の製造及び流通に関する社会的仕組みの総体を指すものであるという考え方は定着した⁹。生産については繊維産業のうち、メリヤス製造業（生地、製品）と衣服、その他の繊維製品製造業はアパレル製造業であり、流通業については卸売及び小売業を対象としている。衣服製造は今日、アパレル製造卸という業態を中心に発展している。アパレル製造卸はアパレルメーカーとも言われ、生産部門と流通部門の両方を持つのが特色である。そのため、衣服製造業者は工業統計表・産業編と商業統計表の両方に登場し、どちらにも属している¹⁰。アパレルメーカーの業種は一般的にメリヤス製品、婦人子供服、紳士既製服、布帛製品、被服の分類があり、商業統計表の「衣服、身の回り品卸売り業」では外衣、下着、寝具、履物、カバンなどに分かれている。

以上の理解を踏まえて、温州アパレル産業を考察する。ここでは2004年と2008に行われた経済センサの公開資料を使用して温州のアパレル産業の基本的構成要素である原材料生産、加工縫製の業者から接近してみる。中国の産業分類表では大分類C製造業に紡績業（17）と紡績服装、靴、帽子製造業（18）、化学繊維製造業（28）という三つの中分類があり、これらは日本でいう繊維産業にあたる。温州アパレル産業の地域経済における位置づけと関連分野の状況を表2にまとめた。

表1を細分類した業種でみると、狭意のアパレル産業、すなわち「紡績服装」の法人企業雇用者数と法人企業数は2004年と2008年において他の業種と比べて

もっと多く、雇用者は10万人以上となる。雇用吸収と地域経済において突出した役割を果たしているといえる。それが温州アパレル産業の第一の特徴である。

第二に温州アパレル産業は中国の一大生産地ではあるが、原材料・生地調達と最終製品の販売消費は域外にあり、「両頭在外」は最大の特徴となる。『2005温州経済センサス資料匯編上巻』に収録される繊維産業関連の法人企業をみると、温州には化繊メーカーは23社で、数的に少ない。

一方、いわゆる「紡織企業」は718社で、「紡績服装、靴、帽子製造業」の企業は1245社ある。そのうち、紡績服装と分類された企業、つまり婦人子供服、紳士既製服、布帛製品、被服縫製に従事する狭義のアパレル企業は1209社あり、「紡織企業」の中のセーター、ニット製品、下着などを作る織物・ニット企業を加えると、膨大な広義のアパレル企業群が存在することになる。本稿のアパレル企業は主に背広などの紳士服、カジュアル、婦人服、子供服など最終製品の製造に従事している企業である。

繊維製品の流通業者は糸、布地・織物などのテキスタイル、アパレル製品の専門卸業者で200社を超え、地域内の消費者を対象とする小売業者が少ないことから、温州以外の地域調達と域外向けの販売が特徴である（表2参照）。また、専門市場は規模が小さく、大量流通の集散的機能が十分に備わっていない。その代わり、国内外にいる温州商人の人的ネットワークはその流通の担い手となっている。

第三に温州紡績業内部の分業化と多様な産業集積はアパレル産業を支えている。紡績産業内には糸、ミシン糸、染色、整理などの専門企業があり、虹橋鎮七村では1975年に工業用ミシンを製造し、81年に輸出を開始した。紡績専用設備製造業者、アパレル生産の専用設備を提供する業者が80年代後半現れ、ボタン、ファスナーなど副資材の生産は頭橋鎮などで盛んであった。

第四に香港と日本から外資導入して急成長していた寧波のヤンガーグループが90年代の初頭に全国に名を馳せていたが、「前店後廠」の家内職人を中心に自力で発展していた温州アパレル産業はほとんど零細な民間企業で、ブランドもなかった。96年の一年に報喜鳥集団、庄吉集団、高邦集団、喬頓服飾、森馬集団などスーツ・メーカーが潤沢な自己資金で相次いで設立され、その後、最新の生産設備を導入していた。国内市場の需要を満たして、海外輸出へと展開する独特な発展を遂げていた。

第五に現在、温州アパレル産業は高付加価値を追求する段階に入り、競争力の

表1 温州工業部門法人企業構成（雇用者数上位13業種）

単位：社・万人 比率%

	2004年		2008年		
業種（中分類）	雇用者	企業	雇用者	企業	備注
皮革・毛皮・ダウン 及び製品	24.53 18.20%	2520	25.64 18.20%	2272	皮靴・皮服・皮鞆・ ダウンなど8業種
電気機械及び機器製造	16.08 11.90%	3946	20.98 14.90%	4858	細分類28業種
汎用設備製造	11.83 8.80%	3831	15.02 10.70%	4560	細分類31業種
紡織服装・靴・帽子製造	10.16	1409	8.55	1026	アパレル、表織物生地の 靴、織物帽子の3業種
プラスチック製品製造	9.15	1939	8.94	1820	細分類10業種
金属製品	7.41	1902	7.26	1955	細分類23業種
交通運輸設備製造	7.11	1696	7.81	1895	細分類17業種
測定機器・メータ・ オフィス用機器製造	6.86	1246	6.16	1245	細分類21業種
工芸品及び製造	4.44	1093	4.41	1325	細分類14業種
ゴム製品	4.14	546	3.85	459	細分9業種
印刷業・記録媒体の複製	3.94	1722	4.02	1900	細分類5業種
紡績業	3.91	814	3.97	806	糸、ねん糸、織物、染色、 整理業、レース、繊維雑 品など細分類18業種
専用設備製造	3.46	1281	4.2	1373	細分類45業種、内、紡績 専用設備製造業者96社、 ミシン製造業者62社、服 装加工専用設備業者10社
その他	—	—	—	—	
合計	134.77	30499	141.01	31051	2004年個人経営は116791 戸、雇用者60.01万人、2008 年個人経営は113938戸

出所：温州市第一次経済センサス弁公室・温州市統計局（2006年1月3日）、「温州市第一次経済センサス主要データ公報（第二号）」温州市第二次経済センサス弁公室・温州市統計局（2010年2月11日）「温州市第二次経済センサス主要データ公報（第二号）」を元に作成。「公報」は温州統計局が発表した調査結果の速報であるため、その後に出版した『2005温州経済センサス資料匯編上巻』と数字が一致していない。備注は『温州市経済センサス資料匯編』（上巻）による。

表2 繊維製品の流通業者の構成

単位：社、箇所

業種と業態	企業数
テキスタイル卸売り	191
アパレル卸売	102
靴帽子卸売業者	50
紡織品・ニット小売	27
服装小売り	72
その他(百貨店・スーパーなど)	77
専門市場	4 か所

出所：『2005温州経済センサス資料匯編上巻』

ない企業が淘汰されたり、有力企業が安価な労働力と広い工場用地を求めて内陸部に新規工場の投資をしたり、また本社を上海に移したりしている。2001年と2004年の経済センサスの結果を比べてみると、2004年温州アパレル法人企業数と雇用者数が減少し、逆に生産高が急増していることから産業集積は新たな段階を迎えている。

表3 温州アパレル産業の生産高の推移

単位：生産高（億元）輸出額（米ドル）%

年	生産高	前年比	輸出額	前年比
1994	20	—	—	—
1999	200	—	—	—
2002	312	—	—	—
2003	352	13.00	6.73	—
2004	360	2.30	7.03	4.4
2005	368	2.20	9.34	32.9
2006	402	9.30	11.38	21.8
2007	480	19.40	11.70	2.8
2008	520	20.50	12.28	4.9
2009	598	15.00	—	—
2010	620	3.70	—	—

出所：『温州年鑑』（2005～2009）各年ネット版と各種報道

<http://www.wenzhou.gov.cn/col/col7343/index.html>

二. 温州アパレル製造企業の立地と産業集積

産業集積をより正確に把握するための基準として丸川（2008）では、「郷・鎮のレベルで見た時の多様性こそ温州および浙江省全体の産業集積の顕著な特徴である」と主張している。温州と蘇南地域の経済成長は所有制の問題を別にして基

本的に郷鎮に立地する企業が担い手として牽引してきた。鎮と郷は計画経済期の人民公社と生産大隊の行政範囲を受け継ぎ、工商行政組織が置かれる末端である。産業集積の地理的範囲として郷・鎮を単位に使用するのとは妥当である。丸川は産業集積の判断基準として「一つの行政単位（郷鎮レベル）に「①1業種の企業が15社以上あり、なおかつ②その企業数が温州市全体の同業種の企業数全体の5%以上を越えるとき、これを「産業集積」と定義した」。温州の郷・鎮の平均面積はおよそ日本の町に相当し、アパレル産業の法人企業の背後には多数の個人企業が集積しているので、本稿では企業数基準をとりあえず10社とする。基準②については、ある業種の企業数が多ければ、要求される集積地の企業基準数が膨らみ、基準①と大きく乖離してしまうので、本稿では重要視しない。その代わりに集積地のアパレル産業の販売額、リーディング企業の存在をあわせて考慮に入れる。

90年代の後半に温州では都市化と企業の拡張と立地調整に伴い、行政単位が大きく再編されていた¹¹。2000年に瓯海区の藤橋鎮、上戍郷、临江鎮、双潮郷、畝底郷、龍湾区管轄の四つの村、永嘉県の七都鎮などが鹿城区の管轄下となり、面積は294.38平方キロに拡大していた。2001年9月の再々編では鹿城区は四つの鎮、五つの郷、12の街道、146の村に変わった¹²。また、龍湾区、瓯海区など温州市のほかの2区も「・・・路」で示される旧市街がある一方、かつての鎮が街道に変わっている。『2005温州経済センサス資料匯編上巻』に収録されている事業法人の住所は2001年以降の行政区画に従っている。

行政地域管轄と新旧地名の変化は産業集積の地理的範囲と企業数の集計に影響を与えるばかりではない。後で見られるように温州のアパレルメーカーは現在、開発区に立地しているものが多く、地域開発政策が産業集積に果たした役割も無視できないことを意味している。

表4は2004年末時点の温州アパレル産業の法人企業の分布を示している。企業の所在地域を市・県と区・鎮・郷という二つの行政レベルに集計し、さらに旧市街と鎮から変身した街道、開発区、鎮に細分した。11の県レベルの行政単位の中に9の行政単位にアパレル法人企業が存在している。各地域でみると瓯海区は367社、最も多く、その次は市街区の鹿城区で263社、龍湾区は60社となり、温州市管轄の上記3区にはアパレル企業が密集している。県レベルの樂清市、瑞安市は156社と151社で仲伯しており、永嘉県は128社と少し遜色する。平陽県

と蒼南県は55社と23社存在し、平陽市昆陽鎮にアパレル産業パークが置かれている。

アパレル法人企業10社以上という基準でみると、温州アパレル集積地は35ある。東西に流れ、主要な町を繋ぐ甌江兩岸（3市区、永嘉県、樂清市）、南部の飛雲江沿岸（瑞安市）、さらにその南部の鰲江の3地域に分布しているアパレル企業は連続的広がりを見せている。

甌江の中流に臨む鹿城市区は温州市中心部であり、アパレル流通の集散地と需給情報の発信地として、現在、零細的アパレルメーカー、企画・デザイン機能し

表4 10社を超えた温州のアパレル産業集積（2004年）

地域	企業数	地域	企業数
温州市	1209	仙岩鎮	11
鹿城区	263	永嘉県	128
市街区	60	甌北鎮	63
双峪鎮	56	上塘鎮	13
藤橋鎮	62	烏牛鎮	14
臨江鎮	17	橋下鎮	32
南郊郷	43	樂清市	156
上戍郷	20	磐石鎮	36
龍湾区	60	北白象鎮	51
市街区	16	樂城鎮	24
靈昆鎮	28	虹橋鎮	18
甌海区	367	瑞安市	151
市街区	15	市街区	24
梧田(鎮)街道	112	塘下鎮	14
甌海經濟開發区	14	莘塍鎮	22
南白象(鎮)街道	19	飛雲鎮	60
婁橋(鎮)街道	26	平陽県	55
新橋(鎮)街道	33	昆陽鎮	12
三垟(鎮)街道	16	鰲江鎮	18
郭溪鎮	33	蒼南県	23
澤雅鎮	11	靈溪鎮	11
麗畧鎮	22	竜港鎮	10

出所：『2005温州經濟センサス資料匯編上巻』より筆者作成

表5 温州アパレル有力企業

現企業名・略史	現在地	工場規模・製品	販売額	ブランド名・販売網・市場
温州丹顶鹤服装有限公司 1985年服装販売店開業 1991年生地販売店と製造工場 1996年新工場稼働	温州高新技術工業園	従業員1000人余。 年産紳士服、カジュアルウエア38万着		OEM生産
華士服装(中国)有限公司 1992年設立	温州市経済技術開発区	年産紳士服40万着、婦人服50万着		OEM生産 フランス・イタリア向け
浙江高邦服飾集团有限公司 1984年服装販売店開業 1989年欧美制衣公司 1996年上海高邦服飾有限公司設立 1998年浙江高邦服飾集团有限公司設立	温州市高新工業区	上海、中山に二つの生産基地と研究開発センター	2005年7.5億	自社ブランド 全国に直営店加盟店 店売500社
报喜鸟集团有限公司 1980年個人洋裁店・自社販売 1996年集团公司設立	瓯北鎮 千石工業区 (本部)	报喜鸟工業園区 上海宝鸟加工基地 (ODM基地)	50億元	四つの自社ブランド イタリア紳士服と韓国ブランドを生産・販売権所得、全国に専売店1000店舗
庄吉集团 1996年に3社が共同設立	温州経済技術開発区	紳士服100万着 平陽工業園区従業員1800人	2010年販売額 24.5億元	JUDGER庄吉 全国に専売店
美德斯邦威服飾有限公司 1986年洋裁店・自社販売 1993年温州凱麗紗服装廠 1994年有限公司、1995年専売店 1998年経営管理中心、R&Iは上海移転 2005年本部は上海へ	藤橋鎮 本社は上海、全国各地に17支社	年5000万着 広東、上海、江蘇など300社に委託生産	2006年400億	カジュアル Meter/bonwe、ME&CITY (ME&CITY Kids)、AMPM加盟店1927 直営店284
森馬集团有限公司 1996年	瓯海新橋(鎮)街道	瓯海森馬工業園区 工場建築面積25万平米。 広東・寧波など130社に生産委託		カジュアルなど18系列 森馬、SEMIR、balabala 専売店180
中国拜麗德集团 1995年会社設立 1996年鄭州専売店	温州市高新産業園、全国に15支社	広州中山、浙江平湖、上海にライセンス生産		拜麗德、棵棵樹 (子供服) 全国チェーン販売店1500
浙江奥奔妮服飾有限公司 1990年彙美服装廠設立・自社販売 1992年温州市奥奔妮制衣有限公司に変更 1998年浙江奥奔妮服飾有限公司に変更	瓯海区	従業員2000人余り 紳士服、カジュアルウエアなど年産80万着	6000万	自社ブランド イタリアOWDと「欧王」ブランドを創出・生産

法派集团有限公司 1990年代前期イタリアブランドの販売 1997年製造工場を設立	南郊郷	紳士服年産100万着、コート、ジャケットも生産 温州と四川省簡陽に両工場、総面積460ムー	2009年販売額 29億	七つの自社ブランド 全国に専売店、パリ、ニューヨークに出店
紅黄藍集团有限公司 行商人と村の縫製業者の取次斡旋に従事 1996年9月設立 2001年に全国的展開企業	本部は永嘉甌北鎮	従業員1500人余 紹興に敷地120ムーの生産工場 年産子供服350万着		二つの自社ブランド 全国販売店・販売コーナー300カ所
夏夢・意傑服飾有限公司 1991年に縫製店設立 自社販売 2003年イタリアと合弁会社を設立		従業員1000人余 四つの生産工場 紳士服30着、カジュアルウェア10万着。	2005年生産額 2.2億元	製品輸出先は米国、イタリア、フランス、日本。 国内に110の専売店
浙江菲姿时装公司 1990年に設立	樂清市虹橋鎮工業区	従業員600人余 年生産50万着		女性ファッション、自社ブランド
中国・欧麗亜製衣有限公司 1993年10月会社設立 2004年に集団会社を設立、 広州など3子会社	樂清市磐石鎮	生産基地従業員1000人 工場敷地3万平米、工場建築面積2万平米。	年販売額1000万元	恒源祥を買収

出所：温州服装商会会員資料、張俊傑編（2005年）「浙商模式」、全国政協文史和学習委員会他編（2008）より作成。

か持たない産地問屋が集中している。鹿城から西の双峪鎮に全国的に専売店を展開している美斯特威邦集团有限公司を筆頭に56社、さらに西の藤橋鎮は62社あり、温州アパレル製造の発祥地として1998年に輸出向けの婦人服を生産する企業が160社あったという¹³。南の南郊郷に90年代から温州紳士服製造をリードしてきた丹頂鶴服飾有限公司、法派集团有限公司（FAPAI）など43社がある。南郊郷に近隣する甌海区梧田（鎮）街道に112社集積し、周辺の各町は漏らさずアパレル製造企業が存在し、温州アパレル産業の最大の集積地となっている。1990年代後半から連続して全国アパレル製造企業売上上位100社、ベストテンにランキングされる庄吉集団、森馬集団などが立地している。温州市政府が1992年に甌海経済開発区を設置し、積極的にアパレル製造企業に工場用地を提供して誘致したのは集積が拡大した一因であると考えられる。

甌江の海の入りに位置する離れ島である靈昆鎮は28社現存し、1990年初期

から「西服島」として紳士用のスーツの縫製業が栄えていた。この島で夏夢という洋裁店を営む陳氏三兄弟が97年に龍湾区瑤溪鎮貧困扶助開發区に工場を移転・開設してから上海から洋裁縫製のベテラン職人を雇い、ドイツ、日本、イタリアからスーツ生産の設備を購入し、イタリアの生地を使って高級スーツの生産を目指していた。2003年にイタリアの傑尼亜 Ermenegido Zegna と合弁会社を立ち上げて、OEMと自社ブランドの生産をしている¹⁴。

甌江を挟んで鹿城市区の北上にある甌北鎮は永嘉県のアパレル製造企業の半数を占める63社あり、鎮下の珠璣村は1980年代初期に李という兄妹が子供服の企業を創設したことをきっかけに村中の人々が模倣し、「温州子供服第一村」として名を馳せていた。縫製工場を構えている紅黄藍集団は中国の子供服ブランドメーカーの位置を確立し、報喜鳥集団は全国ブランドを有する温州のスーツ縫製の最大手企業に成長してきた。

樂清市は磐石鎮と周辺の小白象鎮にカジュアルウェアなどアパレルメーカーが集積し、来料加工からOEMの生産への転換を模索している¹⁵。瑞安市は紳士服のスーツとニット製品のメーカーが集積している。平陽県は庄吉集団、喬治白集団などが新しい縫製基地を設けている。

三. 温州アパレル産業集積の発生と発展

①伝統

集積の歴史的出発点として「資源の存在、リーディング企業の発生、伝統的な技術蓄積の存在など理由」が考えられる¹⁶。温州アパレル産業の発生は伝統的な家内紡績業と洋裁技術の存在と行商人による交易市場の勃興によるものである。清朝から綿やシルクの織物業が営まれ、伝統技術の温州刺繍（瓠綉）は蘇州刺繍などと並び、中国の「六大名繡」と言われ、民国期になってレース編み工場が設置されていた。藤橋では1950年代に県第二輕工業局傘下に企業と服装加工場が創設され、70年代末に服装工場、機械刺繍、手袋、皮服などの工場が設立された。洋裁師たちが「服装学館」を開き、工業ミシンの操作工と裁縫技師が養成されていた¹⁷。ほかに瑞安県場橋服装廠は農村のある洋裁師の斡旋と努力で上海のニット工場から廃棄した機械と原料のはぎれを集めてセーターの試作に成功した。その後、元従業員たちの相次ぐ独立と参入で場橋が一大セーター生産地となってい

た¹⁸。70年代の計画経済下に実質的に民間企業に近い温州の社隊企業が活躍し、アパレル産業集積の先導役を果たしていた。さらに温州の社隊企業の資材調達や販売をする人たち、洋裁の知識を持つ行商人は全国各地を回り、キャッチした需要情報と原材料を次々と温州に搬入していた。

②市場（いちば）の発生と開発区の建設

80年代温州市内の鉄井欄、木构巷などで行商人や縫製業者による既製服やコピーブランドファッション、輸入古着の販売が自然発生し、1985年に妙果寺服装専門市場、動力頭服装卸売市場が正式に設置され、全国各地のバイヤーを集めていた。アパレル卸売市場は温州アパレル産業を孵化していた。

需要が旺盛で、販売場所ができたことで、個人洋裁業者と新規参入者は相次いでアパレル会社や加工工場を立ち上げ、生産した婦人シャツや刺繍シャツを卸売市場で販売していた。たとえば1988年の時点、藤橋鎮にはアパレル企業は40数社、従業員2000人以上になり、藤橋鎮出身者700人が全国各地でアパレルの販売店を展開して生産販売の一貫体制を形成していた。90年代初頭になって紳士服の生産は売れるようになり、紳士服専売の商業地（清明橋スーツ街）、紳士服生地の特約問屋街（黄龍商貿城）が現れた。市場には地元の多くの人々が新規参入し、まず服装や生地の売買、あるいは自社生産・自社販売をし、後に生産領域に落ち着いてきた。

92年以降、藤橋鎮も三つの工業区を建設し、アパレル産業の新規参入を後押ししていた。表5の有力企業の略史を見てわかるようにこの時期の参入者が多く、ほぼすべて服装の流通や販売に従事した経験があり、その中で顧客の確保、流通ルートの確立をして、開発区に近代的な工場を建設した。

③「質量立市」と第二次創業

アパレル産業は価値創造の産業であり、衣類の価値はブランド、デザイン、生地、縫製などを含む、顧客に対してアパレルメーカーが最終的に創造した価値を実現させるには三つの要素と能力を持つ必要がある。すなわち、①優れた生産技術と工場管理の「工」(technology/skill)、②デザイナーやファッションコーディネーターによる「創」(creation/design)、③ブランド力やマーチャンダイシング力などの「商」である¹⁹。

80年代から90年初頭にかけて温州は「偽物、コピー品のメッカ」といわれ、多くの個人服装店、服装工房も外国の商標を盗用し、劣質のブランド品を生産していた。温州服装は武漢服装市場や上海市場から製品が締め出される事態が発生した。取り締まり強化と品質検査などが進む中、温州アパレル業界は「品質立市」と「第2次創業」に取り組むことになった。

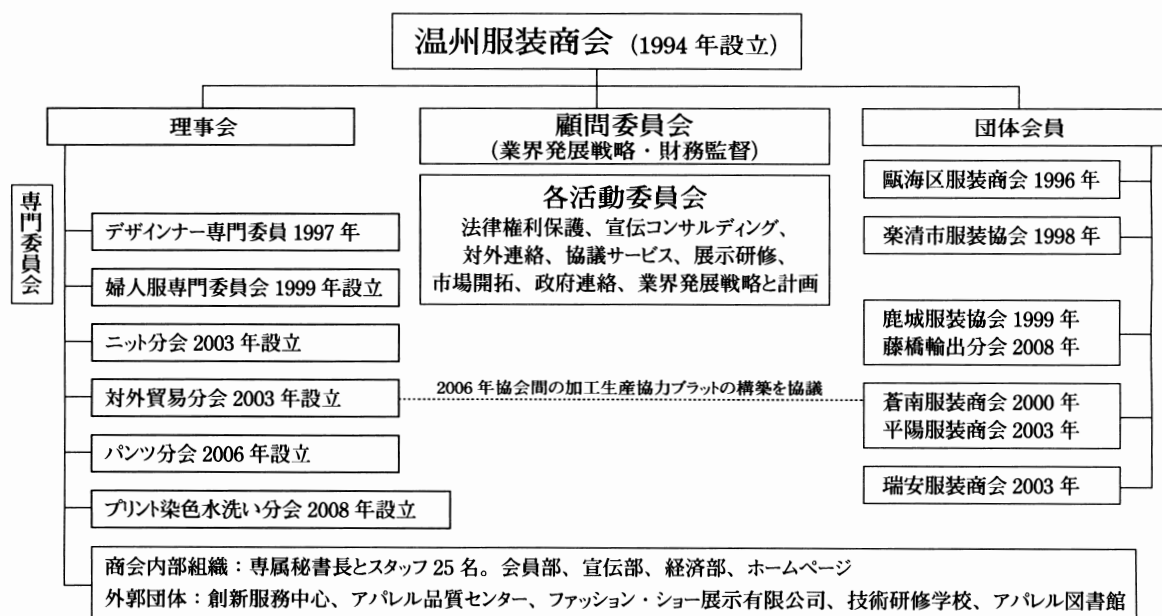
1994年、温州アパレル業界の有力企業は自発的に温州服装協会（2010年現在、会員1500社、地元アパレル企業2500社²⁰⁾）を設立し、業界モラルの確立、技術訓練、情報交換、政府との仲介・交渉、アパレル産業の発展戦略の提言など多彩な活動を展開し、有力アパレル企業の9割、また多くの流通業者が入会する交流の場となった。定期的な会合の中で、新たなビジネスモデルを追求する企業家たちが合弁会社の設立に踏み切り、1996年に報喜鳥集団、庄吉集団、高邦集団、喬頓服飾、森馬集団などが誕生した。

一方、1992年、フランス在住の温州人華僑は帰郷してアパレル企業「華士服装（中国）有限公司」を創設し、ヨーロッパの先進的な製造技術と設備を持ち込んできた。テレビ局を通じた宣伝と紹介により、近代的アパレル工場の姿、良い服を作るには優れた生産設備の投入が不可欠であるといった考えは浸透し始めた²¹⁾。有力企業はイタリア、ドイツ、フランス、日本から最先端の設備と生産ラインを導入し、既存の生産ラインの改善と改造は寧波の技術者にあたってもらい、単品ごとの生産を終えることになった。生産ラインの監督管理は上海のベテラン職人に任せ、生産効率を向上させた。パターン技術の向上はイタリアから技師を招いて指導してもらうことになった。さらに短期間に養成できない高水準のデザイナーはイタリアとフランスから招聘するようになった。温州市アパレルメーカーの品質・生産技術と設備は全国トップレベルに押し上げられた。

96年に温州市アパレルメーカー2社が「国家優等品」に選ばれ、97年にはさらに8社増えて計10社、99年には計35社となった。また同年、「パリ文化週間99」に温州の5社が中国代表として出席し、01年にはドイツで開催された「第9回国際メンズファッション博覧会」に庄吉、報喜鳥、華士、法派、夏夢、金頂針の6社が参加し、国際的にも製品の質が評価されるようになった。各企業は個々違った人体にフィットするデザインを打ち出し、スーツのシェアを拡大して、上海の南京路、北京の王府井といった目抜き通りなどに出店するようになった²²⁾。2003年の時点で温州アパレル企業は2500社、年産5万着以上の企業は200社、

販売額が1億以上の企業は20社、全国に専売店も1万社となる。全国アパレル企業の生産額と販売額上位100社に温州10社が入った²³。

図3 温州服装会と産業の拡大



出所：温州服装商会資料より作成。

④消費市場の変化と多面的革新

2003年に紳士服の消費市場が低迷に陥り、美特斯邦威、高邦、森馬などはカジュアルウェアの生産に切り替え、飛躍的な発展を遂げた。04年、美特斯邦威だけの売上は前年比60%増加し、04年販売高ベストテンの温州服装企業の中にカジュアルウェアメーカー4社が入っていた。表5にみるように温州アパレルメーカーは国内向けのカジュアルウェア生産、OEM生産、海外華僑貿易会社向けの注文生産（貿易）など多様なタイプに分かれ、一部の企業は生産拠点を温州から外地へ移動し始めた。

2008年金融危機の中、OEM生産の企業は注文が減少し、商品開発や販売を手がけるブランド力のある美特斯・邦威や森馬などのメーカーはほぼ無傷であった。それらを手本に法派集団の創業者である彭星をはじめ、温州アパレルメーカー8社と10人の発起人は地元100社やデザイングループをまとめ、持ち株会社を設立、互いに協力して「優衣派」というブランドを育てることになった。計画では

5年間で全国の都市部に「優衣派」大型ファッション販売店を1000店設けるといふ。温州産アパレル、皮革製品、メガネ、服飾用品を共同ブランドで販売し、中国国内市場の開発に力を入れている²⁴。

繊維・衣料品の輸出は04年に8億4,590万元で、前年比10.06%増。輸出先を見ると、婦人服など引き続き旧EU（東欧諸国吸収前のEU諸国）15カ国が主力市場、前年比80.21%増えた。国別で見ると、最大の輸出先はモロッコであった²⁵。

2003年に夏夢がイタリアとの合弁会社を設立してから、温州の有力アパレルメーカーは海外トップブランドとの合作戦略を採るようになった。2005年、法派はオランダのTHE MAKERS、GLOBAL CATとホールディングスを設立、報喜鳥集团有限公司傘下の宝鳥はアメリカQUALLO服飾と生産・販売の協力関係を結び、庄吉集団はイタリアの生地商LOROPANAと販売、テキスタイルの生産提案など業務提携をしている。

2009年に報喜鳥、夏夢、法派、庄吉、乔顿、百先得、功針など16社の紳士服メーカーに常駐する外国人デザイナーは28名となり、495名の中国人デザイナーと組んで設計にあたる。温州産紳士服は縫製とデザインの良さなどから売れ行きがよくなり、16社の紳士服販売額は91.7億元、年産975.5万着、国内市場の平均小売額は一着あたり3807元、最高級スーツは一着1万2千元、5000元を超えるスーツの生産量は156.9万着に達しているという²⁶。中国で高級品ブランドとして認知されている。一方、海外進出戦略において法派は自社ブランドの専売店をパリ、ニューヨークに開店するなどブランドの海外への浸透を図っている。

⑤温州のグローバル・アパレルネットワーク

温州アパレル業界は海外各地にできた温州同郷会、商会などの人的ネットワークで密接なつながりを持っている。イタリアの主要なアパレル産地のPratoに温州人が3万人以上居住し、アパレルの生産、小売、貿易など2千社以上会社を起こし、商品開発、製造技術などの海外情報が瞬時、温州アパレルメーカーに伝達されている²⁷。2004年に中国紡織品商業協会服装商貿委員会が北京以外の温州に設置されたのは温州アパレル業界がこれまで中国のアパレルビジネスモデルのイノベーション、国際市場との連携を深めたことに対する一つの評価であろう。

終わりに

資源と立地などに恵まれない温州に前述したアパレル産業集積が形成された理由はどこにあるのか、それは温州アパレル産業の形成過程に見られたように温州行商人の役割とその活躍に密接に関連していると考えられる。アパレル産業は製造業であると同時に卸売・小売業でもある。温州行商人は服や生地の販売、或は「前店後廠」の自産自商、遠隔地への販売、アパレルメーカーの経営など活動の内容と領域が変化していたが、地域内の生産活動と広域な流通・商業活動には同時にかかわっていたのである。

現在、国内外でアパレルの生産とビジネスに従事している温州人や温州企業の従業員は50万人いるといわれている²⁸。産業集積の発生時に服装関連の商売に従事する温州行商人は適時に産業集積の発生時に製品や需要情報や生地を搬入すると同時に、交易市場（卸売市場、生地市場など）を立ち上げる役割を果たし、生産者を外地の流通市場に向けて生産を組織させた。

90年代初期に彼らは商業で蓄積してきた資金で企業を興し、近代的な縫製工場を立ち上げた。さらに自発的に服装商会を組織したことで域内の企業間に協力関係が形成され、情報交換・技術波及も容易になり、温州の特異なアパレル産業集積が形成された²⁹。

2000年以降、温州アパレルメーカーの有力企業はチームを結成して国内外のファッション・ショーに登場し、地域ブランド力の構築にとりくみ、中国トップレベルの紳士服生産地としての地位を確立させた。

行商人出身の温州アパレル経営者は環境の変化に対応して常に地域の服装生産のオーガナイザーの役割を果たしてきたといえよう。

一方、温州アパレル産業は「両頭在外」（生地・市場は域外にあり）、生産規模の拡大により生産も域外の出稼ぎ労働者が担うようになって「三頭在外」に変わってきた。

近年、労賃上昇と働き手不足が次第に深刻になっている。さらにデザイナーが育ってなく、周辺地域との価格競争が激しくなっているため、温州アパレル産業集積の行方は必ずしも楽観視できない。

本稿は「中国浙江省における民間企業に関する基礎調査」(科研費基盤研究 (B)、課題番号 20402026 代表者菊池道樹) の研究成果の一部である)

- ¹ 周朝霞 (2010) p110。なお、2000 年 11 月の温州人口センサスによると、外来人口は 135 万人、外出人口は 117 万人となっている。
- ² 『商道有情－温州服装商会 10 年誌 (1994-2004)』 p15。
- ³ 渡辺幸男 (2009) 「日本の温州産業集積研究の研究視角」は日本の代表的な先行研究の紹介と批評をしている。なお、菊池道樹 (1997) は開発経済学的な観点から日本人として初めて行った本格的な調査に基づき、農村地域の民間企業に関する論考である。
- ⁴ 丸川知雄 (2001) では温州のアパレル産業の事例も取り上げている。
- ⁵ 丸川知雄 (2008) p32。同論文が使用する主な情報源は『温州市基本単位資料匯編』(中国統計出版社 2003 年) というもので、2001 年に行われた基本単位センサスの副産物である。筆者は未入手である。
- ⁶ 同資料集は 2004 年末に行われた温州経済センサスの副産物で、2004 年に温州に存在するすべての事業法人、合計 6 万数法人の法人名称、住所、事業内容ないし主要製品の情報を収録している。業種分類は『国民经济行業分類 (GB/T4754 - 94)』に、地域区分は中華人民共和国行政区画コード (GB2260- 94)』によるものであると記されている。なお、2003 年には、中国は 3 つのセンサス (鉱工業センサス、第三次産業センサスと基本単位センサス) と未実施の建設業センサスを統合する「経済センサス」制度を新設し、5 年ごとに実施するとされている。
- ⁷ 丁可 (2010) の議論を参考している。
- ⁸ 温州で全国初の「虛擬経営」(デザインと販売部門だけを持ち、製造を各地の縫製工場に発注する製造卸メーカーとして) の経営方式を確立したのも行商人の発想と伝統から来ているかもしれない。
- ⁹ 通産省生活産業局編アパレル・ワーキング・グループ報告 (1977 年 1 月 20 日) 『明日のアパレル産業－その現状と課題を探る』日本繊維新聞社。
- ¹⁰ 鍛島泰子 (2006) p12。
- ¹¹ 市街区の鹿城区は 1998 年の時点、都市部の 17 の街道、郊外農村部である一

つの鎮、四つの郷を管轄。

- ¹² <http://www.lucheng.gov.cn/>
- ¹³ 許文、李岳松「全省服装出口重点基地——藤橋」《温州侨乡报》（第9版）1998年12月29日。
- ¹⁴ 全国政協文史和学習委員会他編（2008）p454。
- ¹⁵ 2004年に「中国カジュアルウェア名城」の称号を与えられた。
- ¹⁶ 伊丹敬之、橘川武郎（1998）p6。
- ¹⁷ 李岳松「経済縦横—藤橋服装出口基地的形成」
- ¹⁸ 全国政協文史和学習委員会他編（2008）『民営経済的興起与発展』p230。
- ¹⁹ 辻美代（2007）「繊維産業」p84を参照。佐々木信彰編『現代中国産業経済論』所収。
- ²⁰ 温州服装商会へのインタビュー（2010年9月）。
- ²¹ 鄭晨愛（2009）『美麗的足跡』p16～17。
- ²² 温州服装協会の資料によると、2003年、45ブランドが国家質量最高級基準の「優等品」に、法派、庄吉、報喜鳥三つのブランドが「馳名商標」に、法派、庄吉、報喜鳥、美特斯邦威、高邦5ブランドが「中国名牌」に選ばれ、法派、庄吉、報喜鳥、喬治白、斯多納、夏夢、高邦など7社の製品が国家免検（品質検査免除）となっている。
- ²³ 温州服装商会資料による。
- ²⁴ 法派集団へのインタビュー。
- ²⁵ 財団法人日中経済協会・上海松川投資諮詢有限公司（2005）『中国華東地域のアパレル産業』。
- ²⁶ 「聚産業集群優勢、建高端服装製造基地—專訪温州服装商会会長鄭晨愛」商会網<http://www.netcoc.com/portal.php?mod=view&aid=19754>
- ²⁷ 『環球時報』（2011年8月11日）「3万華人苦守「温州城」」
- ²⁸ 「聚産業集群優勢、建高端服装製造基地—專訪温州服装商会会長鄭晨愛」
- ²⁹ 松永宣明（2007）「ラオスにおける縫製産業の集積」（渡辺幸男編著『日本と東アジアの産業集積研究』同友館）をくられて読むとおもしろい。

参考文献

【日本語】

- 渡辺幸男（2009）「日本の温州産業集積研究の研究視角」（丸川知雄編『中国の産業集積の探究』、東京大学社会科学研究所）。
- 菊池道樹（1997）「中国農村地域の民間企業：浙江省温州市の事例」（『経済志林』65（3）法政大学経済学会）。
- 菊池道樹（2002）
- (A) 「民間企業の発展と地方政府の役割：移行期における、中国温州の事例（1）」（『経済志林』69（3）2001-12-29 法政大学経済学会）
 - (B) 「民間企業の発展と地方政府の役割：移行期における中国、温州の事例（2）」（『経済志林』70（3）2002-12-5 法政大学経済学会）
- 丸川知雄（1999）『市場発生のダイナミクスー移行期の中国経済』アジア経済研究所。
- 丸川知雄（2001）「中国の産業集積—その形成過程と構造」（関満博編『アジアの産業集積』アジア経済研究所）。
- 丸川知雄（2008）「産業集積の発生：温州での観察から」（『中国経済研究』（2008年3月号）。
- 丸川知雄編[2009]『中国の産業集積の探求』東京大学社会科学研究所。
- 丁可（2007）
- (A) 「雑貨産業における高度化-「市場」はなぜ中小企業活躍の舞台になれるのか？」（今井健一・丁可編『中国 高度化の潮流—産業と企業の変革—』アジア経済研究所2008年）
 - (B) 「アパレル産業の発展方向—産業の集積とオーガナイザーの成長—」（同上）
- 丁可（2010）「専門市場」と中国の中小企業集積—義烏、深圳の事例を中心に」（「アジアフォーラム 21 Annual Report」（2010年7月28日）。
- 今井健一・丁可編（2008）『中国産業高度化の潮流』アジア経済研究所。
- 通産省生活産業局編（1977年）『明日のアパレル産業—その現状と課題を探る』日本繊維新聞社。
- 鍛島泰子（2006）『アパレル産業の成立—その要因と企業経営の分析』東京図書出版会。
- 伊丹敬之、橘川武郎（1998）『産業集積の本質—柔軟な分業・集積の条件』有斐閣。

辻美代 (2003) 「中国アパレル産業の展望」 (佐々木信彰編『現代中国ビジネス論』世界思想社)。

(2007) 「繊維産業」 (佐々木信彰編『現代中国産業経済論』世界思想社)。

(2010) 「繊維産業」 (佐々木信彰編『構造転換期の中国産業』世界思想社)

今井理之編著 (2004) 『成長する中国企業—その脅威と限界』国際貿易投資研究所。

松原宏編著 (2009) 『立地調整の経済地理学』原書房。

【中国語】

周朝霞 (2010) 『民営企業国際化現状・模式及対策研究—以温州為例』浙江大学出版社。

温州服装商会 (2004) 『商道有情—温州服装商会 10 年誌 (1994-2004)』。

鄭晨愛 (2009) 『美麗的足跡—温州服装』温州服装商会。

財団法人日中経済協会・上海松川投資諮詢有限公司 (2005) 「中国華東地域のアパレル産業」。

全国政協文史和学習委員会他編 (2008) 『民営經濟的興起与發展』中国文史出版社。

中国紡織工業協会編著 (2007) 『中国紡織産業集群發展報告』中国紡織出版社。

山東省地図出版社編著 (2007) 『浙江省及隣近省区地図冊』山東省地図出版社。

張俊傑編 (2005 年) 『浙商模式』中国經濟出版社。

温州市統計局編 (2005) 『温州市經濟普查資料匯編』中国統計出版社。

温州地方志弁公室編『温州年鑑』各年版。

温州市統計局編 (2011) 『温州統計年鑑』中国統計出版社。